

本科 2 期 12 月度

解答

Z会東大進学教室

高 2 東大世界史



24章 戦間期の欧米

問題

【1】

解答

問1 (1) (シ) (2) (セ) (3) (イ) (4) (タ) (5) (ウ) (6) (オ) (7) (エ)

問2 (a) 3 (b) トロツキー (c) ネップ（新経済政策） (d) 4

(e) ローザ＝ルクセンブルク (f) ロカルノ条約 (g) 全権委任法

(h) 人民戦線戦術 (i) 3

解説

問1. (1). ロシア帝国の首都である。この都市は建設から1914年までは「ペテルブルク」と呼ばれたが、1914年からは「ペトログラード」に改称された。

(2). 1918年にレーニンはモスクワに首都を移し、ロシア・ウクライナ・ベラルーシ・ザカフカースにより1922年にソヴィエト社会主义共和国連邦が成立した。

(3). この都市での水兵の反乱がその他兵士や労働者に広まり、ドイツ革命となった。この結果皇帝ヴィルヘルム2世は退位し、オランダへ亡命した。

(4). アメリカ合衆国がドイツ賠償金問題へ関与することで、ドイツの賠償金問題が好転すると、フランスは1925年にルール地方から撤退し、国際協調へ向かった。

(5). この地方はヴェルサイユ条約で国連管理地とされ、15年後に住民投票を実施して帰属が決定されることとなっていた。

(6). ズデーテンはチェコスロvakiaがドイツと国境を接する地方。

(7). 1942～43年にかけてのこの戦いで、ナチス＝ドイツの精銳軍がソ連軍に敗北したこと、第二次世界大戦の戦局が転換した。

問2. (a). 1は1918年にアメリカ大統領威尔ソンが示した十四カ条の平和原則。2は1941年の大西洋憲章。4は1928年の不戦条約。

(b). トロツキーは世界革命論を主張した。この主張はスターリンの一国社会主义論と対立し、トロツキーは失脚し、1940年スターリンの刺客に暗殺された。

(c). 1921年から採用されたもので、中小レベルでの資本主義的要素の一時復活を認めた政策。これにより、戦時共産主義体制で弱体化していたソ連の経済力は回復した。

(d). 日本では1945年に認められた。

(e). 彼女やカール＝リープケヒトが起こしたスバルタクス団の反乱を平定した後、ヴァイマル（ワイマール）共和国が建国された。スバルタクス団は後にドイツ共産党となる。

(f). ロカルノ条約ではドイツの西部国境の現状維持が定められた。

(g). 1933年に成立したヒトラー政権は、国会議事堂放火事件を口実に共産党を弾圧し、全権委任法により一党独裁体制を確立した。また、この年に国際連盟も脱退した。

(h). コミンテルンが訴えた反ファシズム運動の統一戦線のこと。ヨーロッパでのフランス・スペインでの人民戦線内閣の成立や、中国での八・一宣言にその影響が見られる。

(i). 1は「アルジェリア」が誤りで、正しくはモロッコ。2は「フランコの反乱軍」が誤りで、正しくはアサニヤの人民戦線内閣。4は「ドイツ・イタリアの支援を受けた反乱軍の勝利で終わる」が正しい。

【2】

解答

問1 ③ 問2 ⑥ 問3 ③ 問4 ④ 問5 ② 問6 ② 問7 ⑥
問8 ④ 問9 ② 問10 ④ 問11 ①

解説

問1. 三月革命（ロシア暦二月革命）は首都ペトログラードにおける民衆のデモや労働者のストライキを契機として起こり、皇帝ニコライ2世が退位してロマノフ朝が崩壊した。

問2. 十一月革命（ロシア暦十月革命）では、ボリシェヴィキ率いるレーニンがケレンスキーの臨時政府を倒し、社会主義政権を樹立した。なお、①のエンゲルスと⑤のマルクスは1848年に著作『共産党宣言』を発表したドイツの社会主義者（マルクスはドイツ生まれのユダヤ系社会主義者）、②のオーウェン（ロバート＝オーウェン）はイギリスの空想的社会主义者で、アメリカ合衆国で理想的協同社会の建設を試みたが失敗した。帰国後は工場法の制定などに尽力した。③のピウスツキはポーランドの政治家で、1926年に軍部中心のクーデタで政権を握り、独裁体制を確立した。

問3. ドイツに対する講和条約は、ヴェルサイユ宮殿の鏡の間で調印された。

問4. フォードは流れ作業方式を導入し、大衆車T型フォードの量産化に成功した。なお、①のカーネギーは19世紀後半～20世紀前半にかけて活躍したアメリカの実業家で、鉄鋼業界を制覇した人物、②のクルップは19世紀に急成長したドイツ最大の兵器生産企業である。

問5. 第一次世界大戦時、日本はドイツが租借していた山東半島を攻撃し、1914年11月には青島を占領した。なお、①の釜山の開港は1876年の日朝修好条規時、⑤の満州国の建国は1932年である。③の旅順の占領・④の東清鉄道の敷設は19世紀末にロシアによって行われた。

問6. 第一次世界大戦後のドイツでは、社会民主党が中心となってヴァイマル憲法を制定し、ヴァイマル共和国を成立させた。国民社会主義ドイツ労働者党はナチスの正式名称である。

問7. ソヴィエト政権成立後、国内外の反対勢力から政権を防衛し、生産低下に対処するために戦時共産主義が採られた。戦時共産主義の下では穀物の強制挑発や工場の完全国家管理化が進められたため、生産意欲の減退を招き、経済危機が深まった。新経済政策は1921年に戦時共産主義に代わって導入された経済政策で、資本主義を部分的に復活し、余剰農産物の自由販売を許可した。1928～1932年に実施された第1次五年計画の下では農業の集団化が進められ、コルホーズと呼ばれる集団農場、ソフホーズと呼ばれる国営工場が全国に拡大された。

問8. ソヴィエトは「評議会（会議）」を意味する。労働者と兵士の代表によって結成され、革命勢力の中心となった。

問9. ルクセンブルクは10世紀からドイツに属し、1797年にフランスが領有した。1815年にオランダと同君連合を結んだが、1867年に独立した。

問10. 1923～1925年、ドイツの賠償金支払い遅延を口実にフランスのポワンカレ内閣はベ

ルギーとともにルール地方を占領した。ルール地方の主要な都市としては、デュースブルクやエッセンが挙げられる。

問 11. 1924 年の移民法では、19 世紀末以降に増加した東欧・南欧系の移民制限が強化されたほか、アジア系の移民が全面的に禁止された。

MEMO

25章 戦間期のアジア

問題

【1】

解答

問1 1 (イ) 2 (エ) 3 (ウ) 4 (ア) 5 (イ) 6 (ウ) 7 (エ) 8 (ウ)

問2 (ア) 問3 (エ) 問4 (エ) 問5 (ア) 問6 (エ) 問7 (ウ) 問8 (イ)

解答

問1. 1. ムスタファ＝ケマルは、1915年にイギリス軍がダーダネルス海峡からガリポリに上陸した際にトルコ軍を率いて撤退に追い込むなど、軍功を挙げた。

2～5. ムスタファ＝ケマルは1920年4月にはアンカラに大国民議会を召集した。同年8月に締結されたセーヴル条約は、トルコ領は3分の1に縮小された上、治外法権を認めさせられるなどの亡国的内容であったことから、トルコ人の民族意識が高まった。ムスタファ＝ケマルはイズミルからギリシア軍を撃退し、スルタン制を廃止した。1923年7月には連合国との間に新たにローザンヌ条約を結んで不平等条約を撤廃し、主権を回復すると、同年10月にはトルコ共和国を正式に樹立し、アンカラを首都とした。

6～8. ムスタファ＝ケマルは1924年にはイスラーム共同体であるウンマの統一の象徴であったカリフ制を廃止し、政治と宗教を分離した。以後、ケマルが結成した人民党（のちの共和人民党）の下で文字改革や女性解放などの近代化改革が進められ、1934年に大国民議会はケマルに対し「トルコの父」を意味するアタテュルクの尊称を贈った。

問2. オスマン帝国は1299年、ルーム＝セルジューク朝崩壊後の混乱に乗じて、オスマン＝ベイ（オスマン1世）によってアナトリアに建国された。

問3. 第一次世界大戦では、ドイツ・オーストリア・オスマン帝国・ブルガリアが同盟国側で参戦した。

問4. クルド人はセーヴル条約で自治区の建設が認められていたが、ローザンヌ条約で否定された。

問5. 1922年にスルタン制は廃止され、メメト6世がマルタに亡命したことから、オスマン帝国は名実ともに滅亡した。1923年にはトルコ共和国の成立が宣言された。

問6. オスマン帝国の成立以前には、セルジューク朝が小アジアへ進出し、十字軍の原因となつた。ムラービト朝・ムワッヒド朝はマグリブ地方、ゴール朝はアフガニスタンを中心に支配した国家である。

問7. 胡適はアメリカ留学中に平易な口語で文学を表現しようとする白話運動を提唱し、文化人や学生らの支持を集めた。

問8. ムッソリーニはファシスト党を創設し、1922年のローマ進軍によって政権を掌握すると、1926年にはファシスト党以外の政党を解散させて一党独裁体制を確立した。

【2】

解答

a 7 b 33 c 29 d 2 e 8 f 16 g 4 h 11 i 24 j 3

A ベンガル分割令 B ジンナー C アギナルド

設問1 < I > 2 < II > 1 < III > 1 設問2 3

解説

A・a・設問2. 1905年にイギリスが発したベンガル分割令に対して反発を強めた国民会議派は、1906年のカルカッタ大会で英貨排斥・スワデーシ（国産品愛用）・スワラージ（自治独立）・民族教育の4綱領を採択した。イギリスは1911年にベンガル分割令を撤回し、民族運動の盛んなカルカッタからデリーに首都を遷した。

b～d. イギリスは1917年にインドの戦後自治を約束したが、1919年に制定されたインド統治法ではインド人の自治はごく一部の範囲しか認められなかった。さらに同年に制定されたローラット法ではインド人の令状なしの逮捕が認められるなど、民族運動の弾圧を目的とした内容であったことから、反英運動が高まった。こうした中で無抵抗の群衆に軍隊が発砲するというアムリットサル事件が起こり、運動はさらに激化した。

e. 国民会議派の指導者ガンディーは、1919～1922年に第1次非暴力・不服従運動を展開し、民族運動を一般大衆も参加する全インド的な運動へと拡大した。

f. 1920年代後半には国民会議派左派のネルーらの動きが活発となり、1929年のラホール大会でプールナ＝スワラージ（完全なる独立）が決議された。

B. 1906年にヒンドゥー系の国民会議派に対抗させるため、イギリスの指導でジンナーを指導者とする全インド＝ムスリム連盟が結成された。第一次世界大戦前後は国民会議派と協働して反英運動を展開したが、1930年代後半からは対立を深め、1940年にはイスラーム教徒の独立国家建設を決議した。

g. オランダ領東インドでは、19世紀末からオランダの圧政に対する抵抗運動が広がり、1910年代前半にはサレカット＝イスラームが結成された。当初は商人による相互扶助的性格が強かったが、次第に独立運動の中心となっていった。

h～j・C. フィリピンでは、19世紀後半からスペインの圧政に対し、海外留学からの帰国者を中心とした啓蒙運動が進み、やがて民族運動へと発展していった。1880年代にはホセ＝リサールが小説によってスペインの暴政を暴くなどの運動を展開し、1896年にはフィリピン革命が起こった。革命派はアギナルドらを中心としてフィリピン共和国を樹立したが、アメリカ＝スペイン戦争でフィリピンの統治権を得たアメリカ合衆国が介入し、フィリピンを合衆国領とした。

設問1. < I >. ライヤットワーリー制では、植民地政府は仲介者を挟まずに直接農民を支配した。< II >・< III >はいずれも正しい。

【3】

解答

設問1 ア 14 イ 11 ウ 8 エ 15 オ 20 カ 38 キ 33 ク 21
ケ 29 コ 43 サ 34 シ 40 ス 27

設問2 A 戊戌 B 中国同盟会 C 辛亥 D 張学良

設問3. (い) 1 (ろ) 3 (は) 1 (に) 3

解説

設問1 - ア～ウ. 日清戦争敗北後は列強による中国分割が進み、ドイツは山東半島南西岸の膠州湾を、フランスは広東省の雷州半島東岸の広州湾を租借した。中国分割に出遅れたアメリカ合衆国は、これ以上の分割の進行を牽制し中国市場への参入をはかるために、1899～1900年に門戸開放宣言を発して、中国の門戸開放・機会均等・領土保全を提唱した。

設問1 - エ・設問2 - A・設問3 - (い). 康有為は実践を重んじる公羊学派の立場から「変法自強」を提唱し、立憲君主制樹立などの改革を提唱した。康有為は梁啓超らとともに光緒帝に登用されて1898年に変法運動を推進したが、西太后ら保守派が起こした戊戌の政変によって運動は弾圧され、挫折した。改革の挫折後、康有為や梁啓超は日本に亡命した。

設問1 - オ～カ・設問3 - (ろ). 義和団は山東省を根拠地とする白蓮教系の宗教結社で、「扶清滅洋」を掲げて武装蜂起した。清朝政府はこれに乗じて列強に宣戦布告したものの、日本とロシアを初めとする8カ国連合軍に敗北した。1901年には北京議定書を締結して北京駐兵権を認めさせられるなど、中国の半植民地化はさらに進んだ。

設問1 - キ・設問2 - B. 孫文は1905年に日本の東京で革命諸勢力を結集し、中国同盟会を結成した。

設問1 - ク・設問2 - C・設問3 - (は). 1911年に清朝は国有化した鉄道を担保に外国から借款を得ることで財政難の克服をはかったが、外国からの利権回収運動を進めていた民族資本家や地方有力者はこれに強く反発した。四川省では暴動が発生し、その鎮圧を命じられた武昌の新軍が革命側に立って蜂起したことから、辛亥革命が勃発した。

設問1 - ケ・コ. 孫文はソ連の指導の下で、共産党员が党籍を持ったまま個人として国民党へ入党することを認める第1次国共合作を行い、「連ソ・容共・扶助工農」を提唱した。

設問1 - サ・ス. 蔣介石は浙江財閥や列強の支援を受けて1927年4月に上海クーデタを起こし、国民党左派と共に共产党を駆逐して、南京に国民党右派による国民政府を樹立した。

設問1 - シ・設問2 - D. 張作霖は日本軍の支援を受けて東北地方を支配していたが、北伐に敗れて奉天へ帰還する途上で日本の関東軍に爆殺された。張作霖の子である張学良が蒋介石による中国東北支配を認めたため、北伐は完成した。

設問3 - (に). 1931年11月、江西省の瑞金に中華ソヴィエト共和国臨時政府が成立し、毛沢東が主席に就任した。

26章 第二次世界大戦

問題

【1】

解答

1 国民社会 2 ヒンデンブルク 3 アメリカ合衆国 4 社会 5 ブルム
6 1938 7 ミュンヘン 8 スターリン 9 フィンランド 10 1941

解説

1・2. ナチス（国民社会主義ドイツ労働者党）は1932年の選挙で第一党となり、1933年にヒトラーを首相とする政権が成立した。1934年にヒンデンブルク大統領が死亡すると、ヒトラーが大統領・首相・党首の全権を持つ総統に就任した。

3. 資本主義国で最初にソ連を承認したのはドイツである（1922年にラバロ条約によって）。アメリカ合衆国は、世界恐慌の中でフランクリン＝ローズヴェルト大統領がソ連を国家承認した。これを受け、ソ連は1934年に国際連盟に加盟した。

4・5. フランスの人民戦線内閣は社会党のブルムを首相に据え、社会党と急進社会党が連立し、共産党は閣外協力して成立した。

6～8. イギリス・フランスはヒトラーに対して宥和政策を採った。イギリス首相のネヴィル＝チェンバレンはズデーテン地方を最後にそれ以上の領土拡大をしないことを条件として、ズデーテン地方のドイツ割譲を承認した。このミュンヘン会談はイギリス・フランス・ドイツ・イタリアの4か国で行われ、ソ連や当事国のチェコスロvakiaは参加できなかった。この会談でイギリス・フランスが示した反ソ連の姿勢に対し、スターリンは強い不満を抱き、それが1939年の独ソ不可侵条約の締結に向かった。

9. ソ連は旧領土の回復をはかり、1939年にフィンランドへ侵入した。この行為をフィンランドは国際連盟に提訴し、結果ソ連は国際連盟を除名された。ソ連軍はバルト三国（エストニア・ラトヴィア・リトアニア）にも侵入し、これらを併合した。

10. 1941年6月、独ソ不可侵条約を破りドイツ軍がソ連領内に侵入したことで独ソ戦が開戦した。このことにより、第二次世界大戦はファシズム陣営と民主主義陣営との戦いへと変質していった。

【2】

解答

問1 1 オ 2 イ 問2 エ 問3 ア 問4 5 ウ 8 カ
問5 ウ 問6 イ 問7 イ 問8 エ 問9 ウ 問10 ウ 問11 オ
問12 イ 問13 イ

解説

世界恐慌の波及とファシズムの台頭に関する問題。よく出題される分野である。空欄補充で

は選択肢が設置されているものの、年代の選択肢はどれも1年刻みであり、正確さが要求される。この場合、あいまいな知識では役に立たない。

問1・2. 世界恐慌について、その年号と“暗黒の木曜日”という用語は誰でも覚えているだろうが、日にちまで問われると盲点をついた出題といえる。怠りなき学習が必要である。

問3. 世界恐慌が起こった当時の大統領はだれか。フーヴァー大統領は1929年初頭にアメリカ資本主義の“永遠の繁栄”を“予言”したが、皮肉にもその年の10月に世界恐慌が始まった。フーヴァー＝モラトリアムを行ったものの、具体的成果はなく、次の大統領選では民主党のフランクリン＝ローズヴェルトが恐慌の克服を唱えて当選した。

問4-5. フランクリン＝ローズヴェルトが大統領選に当選したのは1932年11月である。翌1933年に大統領に就任し、ニューディール政策を推進した。

問5. アメリカで世界恐慌が始まった1929年に、イギリスでは労働党党首のマクドナルドが第2次労働党内閣を組閣したが、恐慌対策として1931年に提案した失業保険の削減に与党である労働党から反対されたため、同年内閣を総辞職させ、恐慌を克服するために改めて保守党・自由党の連立内閣であるマクドナルド挙国一致内閣を組閣した。

問4-8・問7・問10. 1936年に成立したフランス人民戦線内閣について。これは社会党・急進社会党・共産党の連立内閣で、首班には社会党のブルムが就任した。

問6. 1935年の仏ソ相互援助条約はドイツにおけるナチスの台頭を背景として締結された。

問8. 1947年に制定されたエのタフト＝ハートレー法では、ニューディール時のワグナー法から一転して、労働者の基本的権利が大幅に制限されている。

問9. 1932年のイギリス連邦経済会議はカナダの首都オタワで開催されたため、オタワ連邦会議とも呼ばれる。よってウが誤り。イギリスは、ヴィクトリア時代（1837～1901）の前半、すなわち19世紀中葉に自由貿易体制を確立して以来、ドイツ・アメリカなどの後発資本主義国の保護貿易体制の追い上げを受けても自由貿易に固執してきたが、この会議でついに保護貿易へと転じた。

問11. ヒトラーはナチス下のドイツを第三帝国と呼んだ。この場合、第一帝国は神聖ローマ帝国を、第二帝国はドイツ帝国をさしている。問題文をすらすらと読んだだけでは見落としがちな箇所であり、細心の注意が必要なひっかけ問題である。

問12. 1922年のローマ進軍により、ムッソリーニはファシスト党内閣を組閣したが、これは“国王の命”による形式をとったものであり、決して国王を退位させてなどいない。イタリア国王は第二次世界大戦でのイタリア降伏の直前にムッソリーニの逮捕を命じ、新たにバドリオ首相に組閣を命じた。このことを思い出すとよい。

問13. フランコが武装反乱を起こしたのはチュニジアではなくモロッコである。地図で場所を確認しておこう。これも問われやすい事項の1つ。スペイン国内で反乱を起こしたわけではない。



会員番号	
氏名	